

『歴代寶案』校訂本第四冊の発刊に際して

沖縄県教育委員会教育長 津留健 二一

沖縄と中国には、長い友好の歴史があります。一三七二年に、明国の初代の皇帝太祖の招きに応えて、琉球国中山王察度が進貢使節を送っております。

一五世紀から一六世紀にかけて、琉球国は、中国だけでなく、朝鮮国・東南アジア諸国との交易も行い、大琉球国時代といわれるように発展しました。島津侵入後は、諸国との交易は衰微し、専ら中国への進貢だけとなりました。日本国内市場のニーズに応えながら、中国の文物をもたらし、漆芸・陶芸・染織・学問などを学び、独自の沖縄文化を開花させました。

人材育成については、すでに一三九二年に官生（官費留学生）を中国へ派遣しております。当初、王の近親者や按司の子弟を留学させましたが、尚真王代から、久米村の子弟を留学させ、公文書の作成や通訳に備え、経済の発展だけでなく、人材育成にも意を用いました。南京（のちに北京）の国子監における官生は、中国当局から宿舍を与えられ、衣類や食料は、余裕のある現物給与で、他に学用品用として銀も給与され、好遇されました。官生の年限は、三年から七年といわれております。修業年限を終え、帰国した官生は、後代に国王の侍講や、琉球国の最高学府であった国学の講師を務め、後進を指導しました。

琉球国は、五世紀にわたり、技術的にも学問的にも先進国であった中国から、はかり知れない恩恵を蒙りました。明治初年以降、中国との公的な交流は、不幸な日中戦争をはさみ、中断してりましたが、昨年八月には、中国の学者をお招きして、那覇市で第一回琉球・中国交渉史に関するシンポジウムを開催いたしました。これは、歴史的な出来事であり、まことに意義深いことであります。中国当局の御協力に対し、厚く感謝を申し上げます。

沖縄県教育委員会は、平成元（一九八九）年度以来、歴代宝案を編集すべく、歴代宝案編集委員会を設置し、鋭意努力をつづけてまいりました。このたび、関係者各位の労苦がみのり、今年度は、校訂本第三冊・第四冊を発刊する運びとなりました。ここに関係者各位に対し、心

から敬意と感謝を捧げるとともに、全五十巻という歴大な編纂事業を、予定通り編集してまいりたいと考えております。

県民のみなさま方におかれましても、歴代宝案編纂事業に、なお一層の御理解を寄せられ、御協力を賜りますようお願い申し上げます、御挨拶いたします。

平成五（一九九三）年三月